

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

キリストの昇天。

シルヴァン・カンブルラン
音楽への深く大きな愛を想像力豊かに表すフランスの天才
巨匠を思わせる知性と感性を兼ね備え、ベルリンを拠点に活躍する本格派

指揮者 **シルヴァン・カンブルラン** SYLVAIN CAMBRELING, Conductor

ヴァイオリン **マユミ・カネガワ**, Violin

ヴァイオリン **メイリン** を拠点に活躍する本格派

追悼 **H. 296 MARTINŪ: Memorial to Lidice, H. 296**

協奏曲 **第2番 BB 117 BARTŌK: Violin Concerto No. 2, BB 117**

昇天 **MESSIAEN: L'Ascension**

定期演奏会 **YNSO Subscription Concert No. 637**

2024 **4.5** (金) 19時 **サントリーホール** Fri. 5 Apr. 2024, 19:00 Suntory Hall

チケットセンター **0570-00-4390** (10時~18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

協力: アフラック生命保険株式会社

私が殺したのだ。それは自らの羽毛で階段を明るく照らしていた。



シルヴァン・カンブルラン 桂冠指揮者

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導いた名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から9年間、読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得た。19年4月から桂冠指揮者の任にある。バーデン・バーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者、ベルギー王立モネ歌劇場、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督などを歴任。現在、ハンブルク響の首席指揮者、クラングフォルム・ウィーンの名誉首席客演指揮者を務めている。読響とは17年11月にメシアン「アッジの聖フランチェスコ」でサントリー音楽賞、22年10月にヴァレーズ「アルカナ」などで文化庁芸術大賞を受賞した。



金川真弓 ヴァイオリン

音楽への飽きなき探求心と、豊潤かつ深い音色で国際的に活躍する新鋭。ドイツ生まれ。ニューヨーク、ロサンゼルスを経て、現在はベルリン在住。ハンス・アイスラー音楽大学でブラッハーに師事。2019年チャイコフスキー国際コンクール第4位、18年ロマンティボー国際コンクール第2位入賞及び最優秀協奏曲賞を受賞。ベルリン・コンツェルトハウス管、ロイヤル・フィル、ドイツ・カンマーフィル、フィンランド放送響、マリンスキー劇場管などと共演。『リサイタル(RECITAL)』をエクストン・レーベルよりリリース。読響とはヴァイグレ指揮で21、23年に共演し絶賛された。使用楽器は、日本音楽財団貸与のストラディヴァリウス「ウィルヘルミ」(1725年製)

人間は、信仰や祈りと共に生きている。「死」という誰もが免れられないものが、信仰や祈りを生み、豊かな芸術作品を生み出してきた。クラシック音楽も然り。この演奏会では、1930～40年代に生まれた3作品が、フランスの鬼才カンブルランによる渾身のタクトで演奏される。第二次世界大戦を予感させるようなバルトークとメシアンの狂気、そしてメシアンとマルティヌーによる祈りが、未だ紛争の絶えない現代に響く。

1曲目は、マルティヌーが1943年に作曲した「リディツェへの追悼」。チェコからパリを経由しナチスを逃れてアメリカに亡命したマルティヌーが、ナチスによって42年7月に全滅させられたチェコの村リディツェへ向けて書いた追悼の音楽。絶望するかのような重たい不協和音と祈るような優しい響

鬼才カンブルランが 炙り出す狂気と祈り、 そして20世紀音楽の衝撃。

きが交互に続き、最後にはベートーヴェンの運命の動機が打ち鳴らされる。

続いて演奏するのは、マルティヌー同様に1940年にアメリカに亡命することになるバルトークが、38年に完成させたヴァイオリン協奏曲第2番。「弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽」と並ぶバルトーク充実期の傑作だ。強烈な不協和音や12音技法、ハンガリー民謡による5音階や野性味あふれる独自のリズムを用いた斬新な作品で、独奏ヴァイオリンの孤独感や緊張感、ヴィルトゥオージティがえも言われぬ狂気を感じさせる。この難曲を弾くのは、ベルリンを拠点に国際的に活躍する新鋭・金川真弓。カンブルランとの共演で、ストラディヴァリウスの豊潤な音色と類稀なる深い芸術性を披露するだろう。

後半は、メシアン演奏の世界的な“スペシャリスト”カンブルランが、「キリストの昇天」を指揮する。青年期の1933年に作曲され、日本では66年に若杉弘の指揮で読響が初演した。カンブルランは常任指揮者時代、読響と数々のメシアン作品を手掛け、2017年の「彼方の閃光」「アッジの聖フランチェスコ」という二つの最晩年作の衝撃は、今も語り草になっている。今回は、メシアンの個性が花開いた最初の作品とされる「キリストの昇天」で、鮮烈なサウンドを引き出すだろう。壮麗なコーラル、木管楽器による独特の響き、トランペットや打楽器が活躍する極彩色のサウンドなどが展開し、最後は天に昇るキリストを暗示する清らかな響きで締めくくられる。“目に見えない”神の存在を信じたメシアンが生み出した音楽は、私たちに音楽の奥深さを知らせ、目に見えないカへの想像を掻き立ててくれるだろう。

読響日本交響楽団 第637回 定期演奏会

2024年4月5日(金)19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,000 / A ¥7,000 / B ¥6,000 / C ¥4,500

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyoku.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyoku.or.jp/>